

ウンシュウミカン (ミカン科) の学名の著者名について (寺林 進^{a,*}, 中井秀樹^b, 池谷祐幸^c)

Susumu TERABAYASHI^{a,*}, Hideki NAKAI^b and Hiroyuki IKETANI^c: On the Author Name of *Citrus unshiu* (*Rutaceae*)

Summary: Маркович, the author of *Citrus unshiu* is transliterated variously, such as Marcovitch, Markovich, Markovitch and Marcowicz. *International Code of Botanical Nomenclature* recommends that author names should be described in conformity to *Authors of Plant Names* (Brummitt and Powell 1992), where Маркович is transliterated as Marcowicz, its standard form is “Marcow.” Therefore the author name of *Citrus unshiu* should be written as “Marcow.”

Before the publication of *Citrus unshiu* by Marcowicz (1921), both *Citrus nobilis* Lour. subsp. *genuina* Tanaka var. *unshiu* Tanaka (1912) and *C. nobilis* Lour. var. *unshiu* Swingle (1914) were published. Tanaka’s publication is wanting in morphological description. While Swingle made morphological description in detail enough for valid publication. In conclusion the epithet “*unshiu*” should be attributed to Swingle (1914). The correct name of the species in question is consequently *Citrus unshiu* (Swingle) Marcow.

ウンシュウミカンの学名の著者名に関して二つの問題がある。一つは、著者のマルコヴィッチのローマ字表記が文献によって異なっていること、もう一つは、形容語 “*unshiu*” の原著者は誰かということである。

1. マルコヴィッチのローマ字表記について

The International Plant Names Index : IPNI (The Royal Botanic Gardens, Kew, The Harvard University Herbaria and Australian National Herbarium 2009) によると、ウンシュウミカンの学名は *Citrus unshiu* Marcow. と記されている。著者のマルコヴィッチについては、そのローマ字表記が文献によって異なり一定していない (Table 1)。田中 (1927) では Marcovitch と表記しており、日本の果樹や分類学関係の文献ではこ

れに準じたものが多い。しかし、マルコヴィッチ自身が書いたロシア語の論文の英文サマリーでは Markovich と翻字している (Markovich 1930)。Merrill and Walker (1938) や原 (1954) でも同じく Markovich としている。「第十五改正日本薬局方」では生薬のチンピ (陳皮) の原植物の一つとしてウンシュウミカンが規定されているが、そこでの学名著者は同じく Markovich である (厚生労働省 2006)。マルコヴィッチ自身が書いたロシア語の別の論文の英文サマリーでは Markovich ではなく Markovitch と翻字しているものもある (Markovitch 1931)。また、*Flora URSS. Indices Alphabetici I–XXX* (Kirpichnikov 1964) や、植物学名著者のリストアップと標準化を提唱している *Authors of Plant Names* (Brummitt and Powell 1992) では Marcowicz となっている。結果的に、マルコヴィッチのローマ字表記には、“Marcovitch”, “Markovich”, “Markovitch”, “Marcowicz” の4つがあることになる (Table 1)。このようなマルコヴィッチのローマ字表記の違いが何に起因しているかを調査し、ウンシュウミカンの学名に付記する著者名としてどの表記を使うのが正しいかを検討した。

マルコヴィッチは名前から推測されるようにロシア系の人で、Marcovitch, Markovich, Markovitch, Marcowicz などの表記はキリル文字からローマ字に翻字されたものである。まず、マルコヴィッチのキリル文字での表記を見ておかなければならない。ウンシュウミカンの原記載がある *Izv. Sukhumsk. Sadovoi Sel’ skokhoz. Opytn. Stantsii*. No. 2, 5 (1921) は入手困難で、本文献でマルコヴィッチのキリル文字表記を見ることができない。しかし、マルコヴィッチによる他の論文では (Markovich 1930, Markovitch 1931), マルコヴィッチのキリル文字表記はそれぞれ Маркович В. В., Марковича В. В. となっ

Table 1. ウンシュウミカン *Citrus unshiu* の著者マルコヴィッチの各種文献におけるローマ字表記

マルコヴィッチの ローマ字表記	文献名	著者又は編者	発行年
Marcovitch	柑橘研究 1: 11–38	田中長三郎	1927
Marcovitch	日本柑橘図譜 下巻	田中諭一郎	1948
Marcovitch	世界有用植物事典	堀田 満 他 (編)	1989
Marc.	Species Problem in <i>Citrus</i>	Tanaka T.	1954
Marc.	原色日本植物図鑑 木本編 (1)	北村四郎, 村田 源	1973
Marcov.	牧野新植物図鑑	前川文夫 他 (編)	1974
Marcov.	新訂原色牧野和漢薬草大図鑑	三橋 博, 岡田 稔 (監)	2002
Marc.	Izv. Sukhumsk. Sadovoi Sel' skokhoz. Opytn. Stantsii. No. 2, 5	Marcowicz V. V.	1921
Marcov *1	Flora of Japan IIc	Iwatsuki K., Boufford D. E. and Ohba H. (eds.)	1999
S. Marcov.	BG Plants 和名一学名インデックス (YList)	米倉浩司, 梶田 忠	2003–
S. Marcov.	新牧野植物図鑑	大橋広好 他 (編)	2008
Markovich	Bull. Appl. Bot. & Pl. Breed. 24: 423–439 *2	Markovich V. V.	1930
Markovich	A Bibliography of Eastern Asiatic Botany *2	Merrill E. D. and Walker E. H.	1938
Markovich	日本種子植物集覧	原 寛	1954
Markovich	第十五改正日本薬局方	厚生労働省	2006
Markovitch	Bull. Appl. Bot. & Pl. Breed. 26: 77–140 *2	Markovitch V. V.	1931
Marcowicz Marco. (簡略形)	Flora URSS. Indices alphabetici I–XXX	Kirpichnikov M. E.	1964
Marcowicz Marcow. (標準形)	Authors of Plant Names *2	Brummitt R. K. and Powell C. E. (eds.)	1992
Marcowicz Marcow. (標準形)	The International Plant Names Index (IPNI)	The Royal Botanic Gardens, Kew, The Harvard University Herbaria and Australian National Herbarium (eds.)	2009

*1 ピリオドが脱落している。

*2 ウンシュウミカンの学名は扱っていない。

ている。また, *Flora URSS. Indices Alphabetici I–XXX* (Kirpichnikov 1964)では Маркович B. B. と記されている。Markovitch (1931)の Марковича では語尾に аがついているが印刷上の誤りと考えられるので, マルコヴィッチのキリル文字表記は “Маркович B. B.” である。

キリル文字からローマ字への翻字法にはいく

つかあるが, 世界的によく用いられるものとして ISO 法 (ISO: International Organization for Standardization 国際標準化機構), ALA-LC 法 (ALA: American Library Association 米国図書館協会, LC: Library of Congress 米国議会図書館) がある。マルコヴィッチのキリル文字表記 Маркович を ISO 法, ALA-LC 法で翻字すると,

10. *Citrus unshiu* (Makino) Marc. Мы
 решаемся его выделить в особый вид, ибо
 он отличается не только по внешнему виду,
 но и биологически от всех мандаринов. Так
 общий вид его раскидистый, ветви не ко-
 лючия, листья крупные, широкие, обрублен-
 но суженные к вершине с сильно выступаю-
 щими нервами с обеих сторон и узко-кры-
 латыми черешками. Размеры плодов сред-
 ние, форма округло-сжатая. Запах кожицы
 своеобразный, не похожий на все мандари-
 ны. Поспевание раннее, отсутствие семян или
 они единичны, кубарчатой, а не ^{несколько} ~~плоской~~ ^{тен} ~~плоской~~ ^у
 той формы, как у других мандаринов. Кро- ^у
 ме того он весьма устойчив против моро- ^у
 зов. Имеются разновидности с большим ко- ^у
 личеством семян.

Fig. 1. 田中長三郎が柑橘研究 I: 11–38 (1927) に引用した Marcowicz (1921) のウンシュウミカンの記載部分。記載中の書き込みは田中長三郎自身が所蔵の論文へ施したもの。

M → M, a → a, p → r, k → k, o → o, v → v,
 и → i, ч → ch となり “Markovich” と表記される。
 Merrill and Walker (1938), 原 (1954) 及び「第
 十五改正日本薬局方」の Markovich はこの翻字
 法に従ったものであることがわかる。

田中 (1927) はこれとは違った翻字を行い,
 “Marcovitch” として表記した。この表記がどの
 ような翻字規則にしたがったかは不明である。

Authors of Plant Names の Introduction におい
 て、キリル文字の翻字については *Flora URSS*.
Indices Alphabetici I–XXX でとられている方法
 を採用するとしている。*Flora URSS. Indices*
Alphabetici I–XXX でマルコヴィッチをみると、
 キリル文字表記, ローマ字表記, ローマ字表記
 簡略形が記され, それぞれ “Маркович В. В.,
 Marcowicz, Marco.” になっている。ここでの翻
 字法は, ISO 法, ALA-LC 法, 田中の方法とは
 また異なったものである。ちなみに, 同様な例
 としてロシアの植物分類学者マキシモヴィッチ
 を *Flora URSS. Indices Alphabetici I–XXX* で見
 ると, キリル文字表記, ローマ字表記, ローマ
 字表記簡略形はそれぞれ, Максимович К. И.,

Maximowicz, Maxim. になっている。

Authors of Plant Names 及び IPNI では, *Flora*
URSS. Indices Alphabetici I–XXX にしたがいが,
 マルコヴィッチは Marcowicz, Vasil Vasilevich
 (1865–1942), 標準形は Marcow. としている。「国
 際植物命名規約 (ICBN)」(大橋・永益 2007) は,
 学名著者の表記法については *Authors of Plant*
Names または IPNI に従うことを推奨しているの
 で, ウンシュウミカンの学名に付記する著者名と
 しては “Marcowicz (標準形は Marcow.)” を使
 うことが合理的である。

2. 形容語 *unshiu* の原著者

IPNI ではウンシュウミカンの学名は *Citrus*
unshiu Marcow. と表示されていると述べた。ウ
 ンシュウミカンを経として発表した Marcowicz
 (1921) の文献は入手困難であるが, 田中 (1927)
 は Marcowicz (1921) のウンシュウミカンの記載
 の部分を引用しており, そこでは *Citrus unshiu*
 (Makino) Marc. となっている (Fig. 1)。

形容語 *unshiu* の使用は, 田中の “*Citrus nobilis*
 Lour. subsp. *genuina* Tanaka var. *unshiu* Tanaka” (植

蜜柑正類 Subsp. *genuina* m. 特ニ本邦ニ最適也。内ホ
 蜜柑(きしうみかん、ほんみかん)ハ世界共通ノ品種(タ
 tipica m.)ニシテ南ハ九州南部諸島嶼ヨリ北ハ越前ニ及
 ビ、中國ヨリ九州南部マデヲ最適ノ栽培限界トナス。溫
 州蜜柑(うんしうみかん) var. *Unshiu* m.)ハ種類學上ノ
 最良種ナレドモ其限界ハ却テ前者ヨリ狭ク最適地區ハ畿
 内以南九州中部ニ止マル如ク察ス。兩品共本邦果樹ノ干
 者ニシテ其樹齡三百年ニ達スルモノアリ、百年以上ノ老
 木又局地ニ多キヲ以テ如何ニ本邦内地ニ最適セルカヲ知
 リ得ベシ。

Fig. 2. 田中長三郎が植物学雑誌 26: 204 (1912) に発表したウンシュウミカンの学名 *Citrus nobilis* Lour. subsp. *genuina* Tanaka var. *unshiu* Tanaka と記載。

物学雑誌 26: 204, 1912) が最も早い、産地に関する記述に限られ、正式発表に必要な記載文あるいは判別文、または解剖図を含む図解を全く欠いており、ICBN 第32条第1項および第44条第1項(以後 Art. 32.1, 44.1 のように表示)により非合法であり正式発表されていない (Fig. 2)。

次に Swingle (in L. H. Bailey, Stand. Cycl. Hort. 2: 784, 1914) が *Citrus nobilis* Lour. var. *unshiu* Swingle を発表した (Fig. 3)。基礎異名として “*Citrus nobilis* Lour. subsp. *genuina* var. *unshiu* Makino” を文献引用を伴わずに引用しているが、Swingle の発表以前に牧野によってこのような学名は発表されていない。牧野は「日本植物総覧」(牧野・根本 1925) に新組み合わせ *Citrus aurantium* L. subsp. *nobilis* Makino var. *unshiu* Makino を発表しているが、異名として *C. nobilis* Lour. var. *unshiu* Swingle を引用しているので、形容語 *unshiu* の原著者は牧野自身ではなく Swingle であることが分かる。Swingle の発

表は基礎異名として “*Citrus nobilis* Lour. subsp. *genuina* Tanaka var. *unshiu* Tanaka” と引用すべきところを “Makino” と誤って引用したものと解釈できる。Art. 33.2 によってこの組み合わせは合法であるが、前述のように “*Citrus nobilis* Lour. subsp. *genuina* Tanaka var. *unshiu* Tanaka” は非合法名であるために、その結果につくられた学名は、Art. 58.1 の規定により、Swingle による記載文を伴って改めて発表された新しい学名として扱われなければならない。したがって、Marcowicz (1921) の組み合わせ *Citrus unshiu* (Makino) Marc. は、Swingle (1914) の誤謬を引き継いだもので、Art. 33.2 に基づき、間接的に Swingle を引用したものと見なすことができる。

以上のことから、ウンシュウミカンの正名は “*Citrus unshiu* (Swingle) Macrow.” と表記される。なお、「BG Plants 和名-学名インデックス (YList)」(米倉、梶田 2003-) でも *Citrus unshiu* (Swingle) S. Marcov. としている。ただし、マルコヴィッチについては S. Marcov. ではなく Macrow. とすべきである。

Citrus unshiu (Swingle) Markow. in Isev. Soch. Obl. Sukh. Sadov. Opyt. Stant. (2): 5 (1921), ut ‘(Makino)’; Tanaka in Stud. Citrol. (Mem. Tanaka Citrus Eper. Stat.) 1(1): 28 (1927) – *Citrus nobilis* Lour. var. *unshiu* Tanaka [Bot. Mag. (Tokyo) 26: 204 (1912), nom. nud.] ex Swingle in L. H. Bailey, Stand. Cycl. Hort. 2: 784 (1914)* – *Citrus aurantium* L. subsp. *nobilis* Makino var. *unshiu* (Swingle) Makino in Makino & Nemoto, Fl. Jpn. 667 (1925).

*Swingle (1914) erroneously cited the author name if the basionym as Makino.

引用文献

- Brummitt R. K. and Powell C. E. (eds.), 1992. Authors of Plant Names. Royal Botanic Gardens Kew.
 原 寛 1954. 日本種子植物集覧 3. 岩波書店, 東京.
 Kirpichnikov M. E. 1964. Index alphabeticus auctorum ad taxa adductorum. In: Bobrov E. G. and Tzvelev N. N. (eds.), Flora URSS. Indices Alphabetici I-XXX. Mosqua.
 厚生労働省 2006. 第十五改正日本薬局方. 厚生労働省, 東京.
 牧野富太郎, 根本莞爾 1925. 日本植物総覧. 日本植物総覧刊行会, 東京.
 Marcowicz V. V. 1921. Pomerantsevye dlia Chernomorskgo poberezk’ia. Izv. Sukhumsk. Sadovoi

Var. *unshiu*, Swingle (*C. nobilis* subsp. *genuina* var. *unshiu*, Makino). SATSUMA OR UNSHIU ORANGE. A small spineless tree, with a spreading dwarf habit: lvs. broad, abruptly narrowed toward the apex, with strongly marked veins on both faces: fls. small, very abundant: fr. depressed-globose, 2–3¼ in. diam., deep orange; pulp orange, very juicy, of a peculiar but agreeable flavor; pith hollow; segms. 9–13; seeds often lacking, when present only few in number, broadly top-shaped, not beaked as in the Mandarin oranges, greenish within.—This very marked orange seems to constitute a botanical variety distinct from the King or the Mandarin oranges. It is commonly grown in Japan, whence it was intro. into Fla. by Geo. R. Hall in 1876, according to H. H. Hume, "Citrus Fruits and Their Culture," p. 112. 1909. The Satsuma orange is one of the hardiest of all edible citrous frs. Budded on the trifoliate orange, it can be grown in many parts of the Gulf Coast region, where all other citrous frs. except citranges are killed by cold. The Satsuma can be grown best on the trifoliate orange stock. It grows on sweet stock but does not produce as much nor as good fruit and is not so hardy. It makes only a stunted growth on sour orange stock and soon dies. It cannot be grown satisfactorily on light sandy land or on black waxy lands with a marly subsoil where the trifoliate orange does not grow well. It could be grafted on Rusk citrange for the black waxy lime soils of Texas.

Fig. 3. Swingle が L. H. Bailey (ed.), Stand. Cycl. Hort. 2: 784 (1914) に発表したウンシュウミカンの学名 *Citrus nobilis* Lour. var. *unshiu* Swingle と記載.

- Sel' skokhoz. Opytn. Stantsii. No. 2, 1–15, Sovetskaia Tipografia, Sukhum.
- Markovich V. V. 1930. The commercial mandarine of India. Bull. Appl. Bot. & Pl. Breed. 24: 423–439 (in Russian with English summary).
- Markovitch V. V. 1931. Rubber plants of Java and India. Bull. Appl. Bot. & Pl. Breed. 26: 77–140 (in Russian with English summary).
- Merrill E. D. and Walker E. H. 1938. A Bibliography of Eastern Asiatic Botany. Arnold Arboretum of Harvard University, Cambridge.
- 大橋広好, 永益英敏 (編) 2007. 国際植物命名規約 (ウィーン規約) 2006. 日本語版, 日本植物分類学会国際植物命名規約邦訳委員会 (翻訳). 日本植物分類学会, 上越.
- Swingle W. T. 1914. In: Bailey L. H. (ed.), Stand. Cycl. Hort. II. p. 784. Macmillan, New York.
- 田中長三郎 1912. 本邦産柑橘果樹ノ利用ニツキテ. 植物学雑誌 26: 202–207.
- 田中長三郎 1927. 温州蜜柑の起原系統并に学名に就いて. 柑橘研究 1: 11–38.
- The Royal Botanic Gardens, Kew, The Harvard University Herbaria and Australian National Herbarium (eds.) 2009. The International Plant Names Index. IPNI. <http://www.ipni.org/ipni/pkantznamesearchpage.do>
- 米倉浩司, 梶田 忠 2003–. BG Plants 和名—学名インデックス (YList). http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html

(^a横浜薬科大学 漢方薬学科,

^b札幌市

^c独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所)

*Corresponding author:

s.terabayashi@hamayaku.ac.jp